

H28「宮城県障害者施策推進基礎調査」の結果について

1 調査の概要

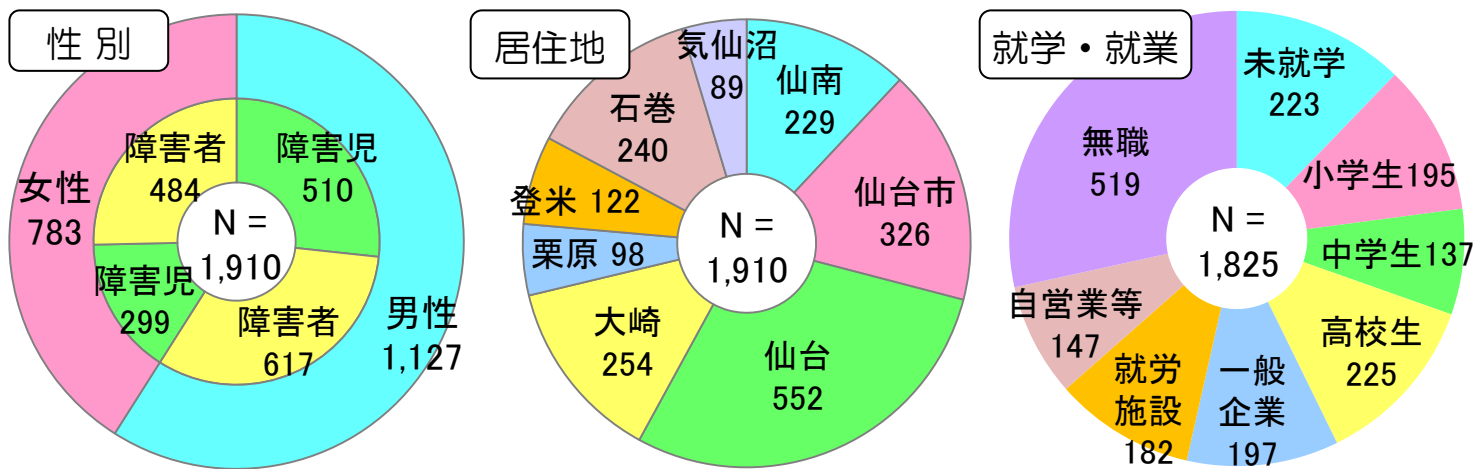
目的	みやぎ障害者プランに盛り込むべき支援ニーズ・施策の把握									
方法	郵送・インターネットによるアンケート			期間	平成29年1月25日～2月19日					
発送・回収	障害者手帳所持者4,000人(属性分けの上、無作為抽出)から1,910人回収 ※ 母集団の少ない障害児や知的・精神障害の意向把握のため、標本抽出を調整									
	身体障害		知的障害		精神障害		合計			
	発送	回収	発送	回収	発送	回収	発送	回収	%	
障害児	817	367	754	387	118	55	1,689	809	47.9	
障害者	891	369	568	280	852	452	2,311	1,101	47.6	
合計	1,708	736	1,322	667	970	507	4,000	1,910	47.8	

※ インターネットによる回答は160サンプル(障害児[保護者]100/障害者60)で全体の8.3%であった。

分析上の留意点	全体の傾向等を分析する際は、母集団の構成比(身体67%・知的18%・精神14%)に応じてウェイトづけ集計を行い、統計的な信頼性を確保								
---------	--------------------------------------------------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--

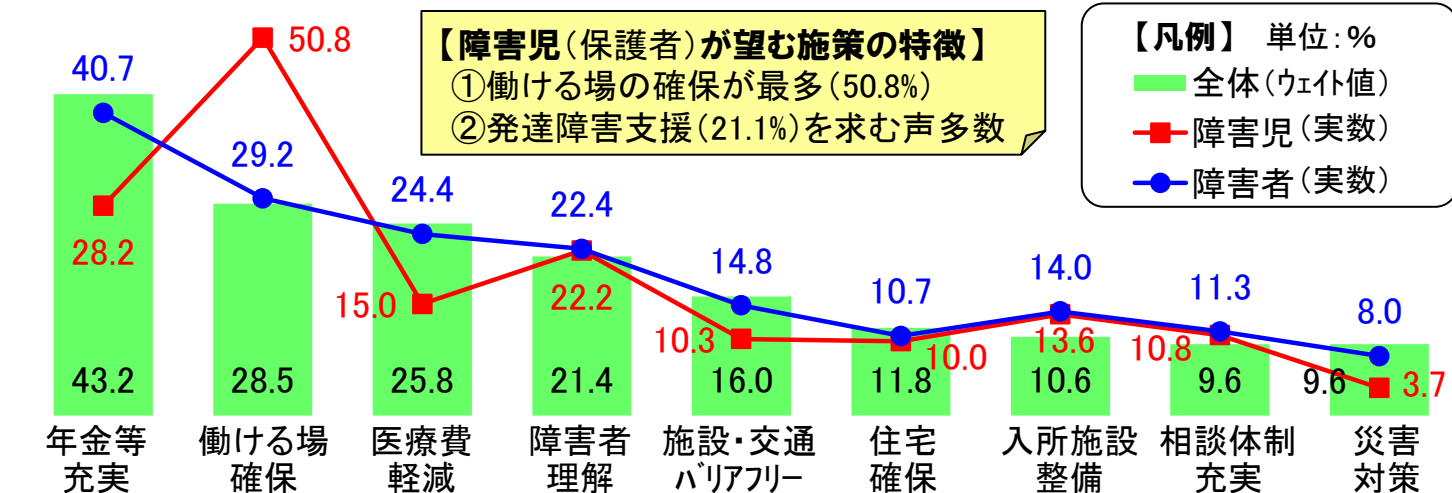
2 結果の概要

(1) 回答者の属性 (実数)



(2) 最優先で取り組んでほしい施策 (複数回答・上位の施策を抜粋)

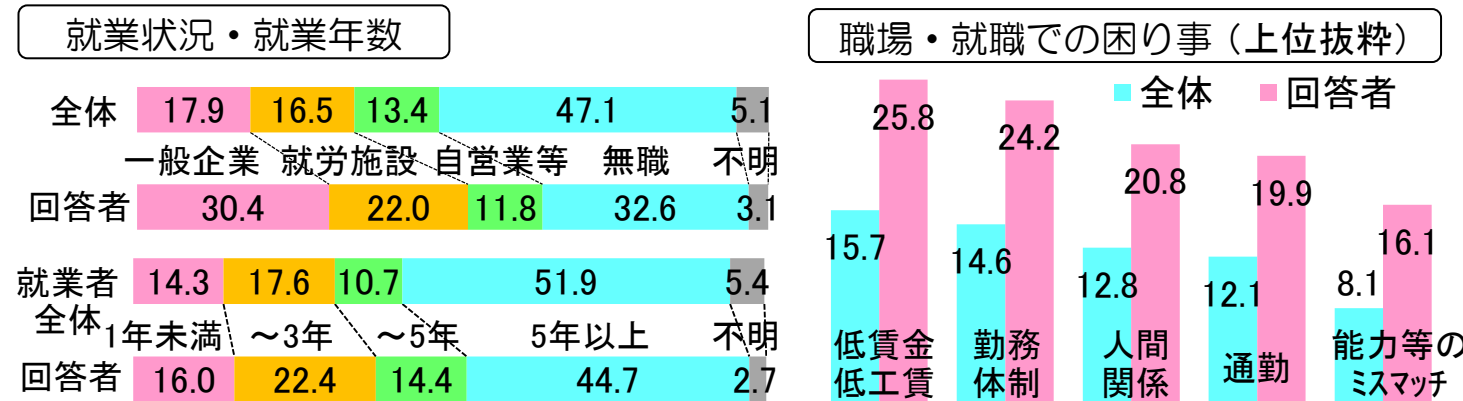
▽ 所得保障(年金等・医療費)の充実のほか、**雇用・就労の機会創出**や**障害者への理解促進**、**住まいの確保**(施設含む)、相談支援を含む**社会参加のための環境整備**を求む声が多数



3 詳細 (県の重点施策として推進すべき課題等)

(1) 「働ける場の確保」を挙げた人の分析

▽ **企業・就労施設での就業経験は高いが**、下記の理由等から**就業年数は短い傾向**



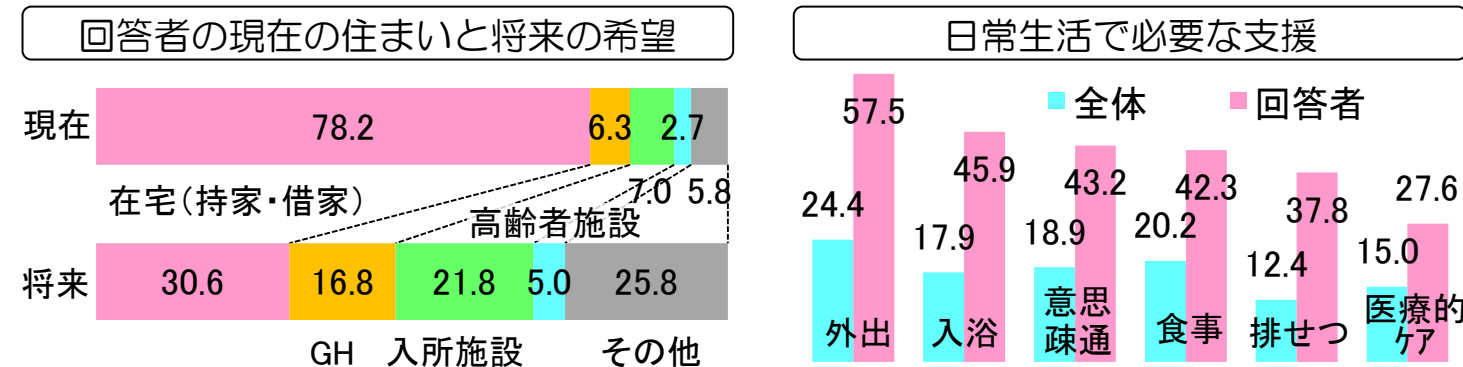
(2) 「障害者への理解」を挙げた人の分析

▽ **法制度の認知度**に大差はないが、**差別を受けた経験あり**との回答が多い



(3) 「住まいの問題」を挙げた人*の分析

▽ **現在は在宅だが**、下記の理由等から**将来はGHや施設での生活を希望する傾向が高い**
 ※「住宅の確保(11.8%)」、「入所施設の整備(10.6%)」、「GHの整備(6.1%)」のいずれかを挙げた人(計25.0%)



4 現行プランの評価 (H21調査との経年比較)

▽ 「最優先施策」の順位に変動はないが、「**障害者への理解**」や「**働く場の確保**」等が**進捗**し、障害のある人の社会参加が促進

→ その結果、各種施設や交通機関等での**アクセシビリティの向上**を求める声が増加

▽ 他方、GHや入所施設の整備を求める声も**増加**する傾向にあり、在宅生活に不安を感じている人が増加していると推測

